

STSフォーラム第4回年次総会  
(2007年10月9日、京都)

声明  
(仮訳)

1. STSフォーラム第4回年次総会が10月7日から9日にかけて、71の国・地域・国際機関から600名を超える世界の指導的な科学者、政策立案者、ビジネスマン、オピニオン・リーダーが一堂に会して開催された。フォーラムに参加した福田総理は、科学技術の進歩をなくしては「持続可能社会」への転換は不可能と強調した。本年のSTSフォーラムでは「自然との調和」と「イノベーション」をメインテーマに科学技術に関する議論が行われ、以下の点が合意された。
2. 我々は気候変動に取り組むことの重要性を認識し、すべての国が参加する、京都議定書に代わる新しい国際的な枠組を構築する必要性に同意した。STSフォーラムは、第1回年次総会を開催した2004年以来、この「ポスト京都議定書」プロセスを提唱してきており、気候変動問題についてすべての国が参加できる取組に向けた国際社会の合意が形作られつつあるという事実を高く評価する。我々は、さらに具体的な対話がG8サミット及び他の国際的なフォーラムで行われることを期待する。
3. 我々は、世界的なエネルギー需要が今後増大することが見込まれるとともに地球環境への関心が高まっていることから、エネルギー効率を速やかに向上させ、様々なクリーンな代替エネルギー源を更に開発することが必要であると確信する。原子力の利用は、安全の確保と核不拡散を大前提に、ますます重要な役割を果たさなければならない。さらに、将来に向け、核融合の研究開発に投資することが不可欠である。
4. 水は、飲料用であれ農業用であれ、現在我々が取り組まなければならない最も差し迫った世界規模の問題の一つである。我々は、科学技術が人類の直面しているこの重大な問題の解決に対してより一層貢献できると認識している。
5. ライフサイエンスは、特に現在のゲノム時代において、人類に利益をもた

らすものと大いに期待されているが、ライフサイエンスの成果を実用化する場合に倫理的な懸念が持たれているものもある。我々は、国際協力も含むライフサイエンス分野における研究開発活動が、非常に活発であると認識している。この点で、我々は、世界中の研究者が対等な立場で研究することを可能とする国際的な基準を確立することが望ましいと考えている。

6. 人口の増加、食生活のレベルの向上さらにはバイオ燃料の需要増大により、食糧供給は重大な危機に瀕している。分子生物学のあらゆる可能性を含む科学の長所は、農業の生産性向上に向けられなければならない。
7. 我々は、ナノテクノロジーのブレークスルーは人類に大きな利益をもたらすポテンシャルを持っているが、その潜在的なリスクを前もって分析して最少化すべきであるという見解を共有する。
8. 我々は、情報通信技術（ICT）の更なる発展が人類の将来の繁栄に必要であることに合意した。最近のコンピュータ能力の急激な向上が科学の限界をさらに引き伸ばし、コンピュータのこれまでにない利用は社会に大きなインパクトを与える可能性がある。我々は、誰もがアクセスできるインターネットが必要であるとともに個人データの効果的なセーフガードを講じるための措置と技術が必要であると考えている。
9. ワクチン開発及び他の措置による主要な感染症の予防は人類の将来にとって最も重要であり、すぐに行動に移す必要がある。さらに、我々は、将来世界的に流行病が発生しないように監視し、予防するとともに、効果的なワクチン配分や情報交換を可能とするメカニズムを必要としている。
10. 発展途上国における共同研究は、先進国の研究者や科学者の参加によって促進されるべきである。そのため、政府開発援助（ODA）の一部を発展途上国における共同研究に用いるべきであり、これにより先進国の資金力に加えて発展途上国の人的潜在力の利用が可能となる。STSフォーラムは、先進8カ国に対し、2008年のG8サミットにおいてこの提案に関し検討することを期待する。
11. 知的財産権保護は、新たな知見の発見とその利用を促進するために不可欠であるが、現行の世界的な制度は改善される必要がある。

- 1 2. 大学は、学生を教育して知識を向上させることが本来有する役割であるが、産学官連携を通じてイノベーションを促進し、それによって社会経済上の発展に貢献するという重要な役割を演じるべきである。
- 1 3. 科学技術が非常に進展しているので、人類は自然を管理できると考える傾向にある者もいるが、我々は、人類は自然の一部であり、自然と調和しつつ生活すべきであることを忘れてはならない。科学技術の利用は負の側面も有するが、我々は、科学技術の更なる発展なしにはこれまで述べた問題の解決策もないということを認識しなければならない。
- 1 4. イノベーションは育まなければならない。イノベーションの成否は、型にはまらないアイデアを生み出す調査研究を促進する教育制度によって強化される創造性次第である。民間及び公的研究機関双方の基礎研究及び応用研究から生まれる新しいアイデアは、可能な限り、製品化して社会に利益を提供するようにすべきである。
- 1 5. 我々はSTSフォーラム第5回年次総会を2008年10月5日（日）から7日（火）まで京都で開催することに合意した。その時にまた我々は一堂に会し、自然と調和した人類のより良い未来に向けた新しい知を涵養するため、科学技術の光と影を理解していくという挑戦を続けていくこととする。